



拜啓 一昨朝の當市

火災の付き早速電報

を以て鄭重の由見舞

を蒙り一日良程有

お慶を昨日の各名を新

少社小山移すやの感

同様に金考給國の

送付の由ら何よか見

斗に揚息と聲との由

抄此よりしるる由坊

念の現物の方の上取

今日現物の方い部令  
よらしき 不也身りりて

百五の電報を流

て昨日午後四時迄

先方ニ持参り即了交

以懇心ろの五日良と

深う感佩し本人互

梅は礼ニテトシるを

あるホヤをすも直中友

尸下夫此とら中出さる

座りしりぬの次弟

と伯毒村は夫帰子

に彼露と出ると  
有

梅は礼に下りては元

あるは世にありは可中友

戸下夫は世より中出さる

座よりいふは次弟

と伯毒世は夫歸子

正彼露は年出の長  
孫子

おは様杉人は力か  
ひきおと

三十一

上孝は世にあり

大隈伯毒討

上執事  
常